

# 伝統工芸を守る伝道師

つたへいしち  
佃平七糸取り工房

つくだ みえこ  
佃 三恵子さん(木之本町大音)

撮影場所：佃平七糸取り工房

「カタカタカタ」どこか懐かしい音が集落の路地から聞こえてきます。市内で唯一の糸取り工房「佃平七糸取り工房」。そこには作業を行う佃三恵子さんの姿があります。

佃さんの家系は代々糸取りを行っていたので、小さいころから手伝いをしてきたそう。「手伝いながら祖母に教えてもらい、自然と糸取りの技術が身についていきました。自分の技術が磨かれていくのが実感できて楽しかった」と笑顔で話します。

大音は古くから糸取りが盛んだった地域で、70～80軒の工房があったといいます。「昔はうちでも着物の布も作っていたらしいんですけど。大企業の大量生産や化学繊維に押されてしまい、

多くは店をたたんでしまった。うちは邦楽器の糸を専門に事業を展開して、生き残ることができた」と佃さん。残っていた最後の工房も20年程前にやめてしまい、佃平七糸取り工房が最後の1軒となりました。「とても寂しかった。ただその分、この伝統工芸を私が守っていたかなあかんという自覚が強くなりました」と当時を振り返ります。

そこからは自身の技術をさらに磨くとともに、後進の育成にも力をいれてきました。「繭はお蚕様が作り出すもの。生き物なので一つひとつ異なる。そこに合わせて上手くできるかどうか試行錯誤が必要なんです」と、一人ひとり丁寧に指導を行っています。

また、少しでも多くの人に知ってもら

おうと見学も積極的に受け付けます。楽器や、着物の製作に仕事として携わる人はもちろん、趣味で見に来てくれる人も。「今年は特に多く、数百人の見学者が来てくれた。いろんな人に糸取りを知ってもらい、とても嬉しい」と目じりを下げます。

これからの目標は後世に技術を受け継いでいくこと。「これ以上規模を大きくしようとは思ってないんです。ただこの技術は規模が小さくても後世に引き継がない」と使命感を口にします。一方で、「私も、体が動くかぎり、続けたい。生涯現役ですね」と熱い気持ちも語ります。

過去と未来をつなぐ伝統工芸の伝道師として、佃さんの挑戦が続きます。

## Smile Smile

このコーナーでは、市内在住のお子さんたちの写真を掲載します。笑顔と元気あふれるお子さんたちの写真を募集しています。掲載を希望する人は市民広報課(☎65-6504)まで申込みください。



我が家のわんぱく BOY!  
これからの成長がすごく楽しみです!  
家族みんなで応援してます!

杉中

敦紀

ちゃん(平成30年10月生まれ)

(神照町)

松永

菜生

ちゃん(平成30年9月生まれ)

(殿町)



毎日ニコニコ笑顔のらいちゃん♥  
これからも笑顔いっぱい、元気いっばいに大きくなってね☺だいすきだよ♥

まちの人口	令和元年10月1日現在	人口118,103人	男57,963人	女60,140人	世帯数46,301世帯
	令和元年9月中の異動	転入254人	転出224人	出生81人	死亡129人 婚姻45件